

ASIA Indicators

定例経済指標レポート

Asia Weekly (4/14~4/18)

発表日:2008年4月21日(月)

～フィリピン、国際収支悪化による為替減価がペソ建での労働者送金額の底打ちをもたらす可能性も～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 西濱 徹 (03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/15 (火)	(ニュージーランド) 1-3 月期消費者物価 (前年比)	+3.4%	+3.5%	+3.2%
	(韓国) 3 月輸入物価 (前年比)	+28.0%		+22.2%
	3 月輸出物価 (前年比)	+13.4%		+7.6%
	(フィリピン) 2 月海外労働者送金 (億ドル)	12.6		12.6
4/16 (水)	(韓国) 3 月失業率	3.1%		3.0%
	3 月就業者数 (百万人)	23.54		23.56
	(フィリピン) 3 月国際収支 (億ドル)	+4.32		+10.41
4/17 (木)	(シンガポール) 3 月非石油輸出 (前月比、季調済)	▲2.6%	+1.0%	▲1.4%
	(香港) 1-3 月失業率	3.4%	3.3%	3.3%
	(インド) 卸売物価 (4/5 時点、前年比)	+7.14%	+7.19%	+7.41%
	預金準備率	8.00%		7.50%

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び REUTERS 調査

～フィリピン～

15日に公表された2月の海外労働者送金額は米ドルベースで12.6億ドルと前月とほぼ同額の流入があり、対前年同月比でも+15.9%と前月(同+15.0%)から伸びが加速した。一方で、ここ数年の間で進展した急速な通貨ペソの対米ドル為替レート増価の影響もあり、ペソベースでは対前年同月比▲2.5%と前月(同▲3.8%)から減少のペースは鈍化しているものの、依然前年割れの状況が続いている。

同国にとって海外労働者送金は、名目GDPの1割を占める重要な資金源であるが、労働者の太宗を占める米国経済の減速が本格化していることで、先行きの送金額は先細りの見通しが高まっている。その一方、足元では同国の国際収支やインフレ率といったマクロ経済面でのファンダメンタルズの弱さに起因した海外からの投資資金の流出により、通貨ペソが一転して減価姿勢に転じていることから、ドルベースでは送金額の伸びが鈍化する見通しの方、ペソベースでは減少ペースが抑えられる効果が期待される。

図1 フィリピン 海外労働者送金額の推移(前年比)

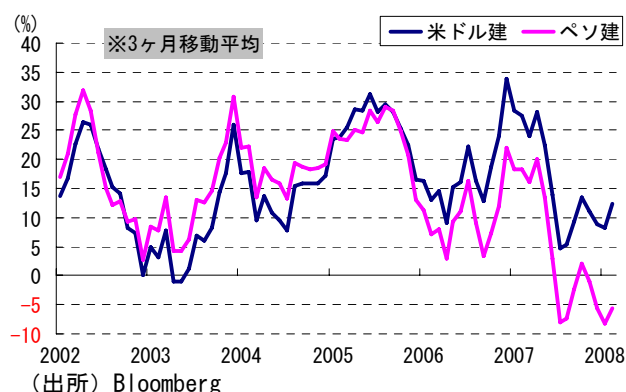
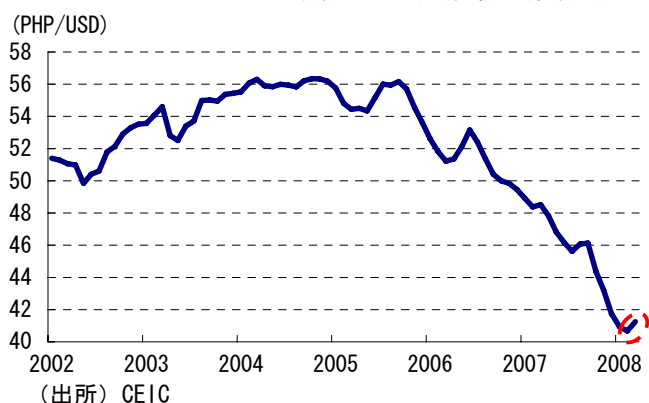


図2 フィリピン 通貨ペソ為替相場の推移(月次)



16日に公表された3月の国際収支は、4.32億ドルの黒字と前月（10.41億ドルの黒字）から大幅に黒字幅が縮小した。その結果、1-3月期の国際収支は17億ドルの黒字と、前期（19億ドルの黒字）から黒字幅が若干縮小することとなった。経常収支等の詳細な係数が公表される前の段階ではあるものの、同国経済は昨年、内需の底堅さによる堅調な成長により約30年ぶりの高成長を遂げ、内需の力強さは輸入の伸びの力強さとなり、貿易収支は定常的な赤字基調が続いている。一方で、米国経済の減速等、外部環境が厳しさを増す中、輸出の大幅増進は期待しがたい。その上、世界的な金融不安に端を発する投資資金の逃避は同国にも及び、足元では通貨ペソが減価基調に反転している。貿易収支動向が弱含みな上、労働者送金の先行きも弱含みとなる中、同国の経常収支の先行きには下押し圧力が高まっている。さらに、資本収支の流入の先細りも予測される中、国際収支は弱含み基調となり、結果的に通貨ペソの対米ドル為替相場も減価基調が続くものと見込まれる。

図3 フィリピン 国際収支の推移

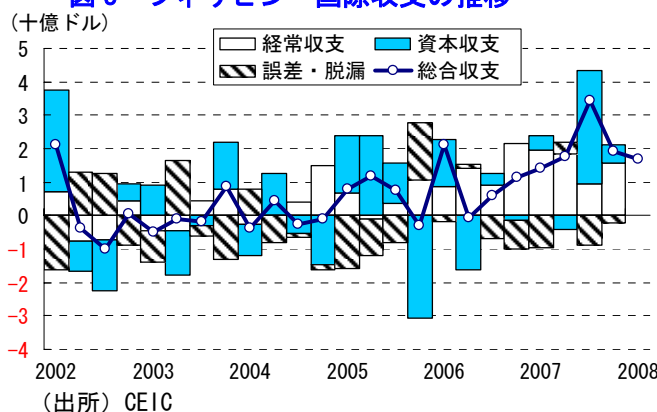


図4 フィリピン 輸出入の推移

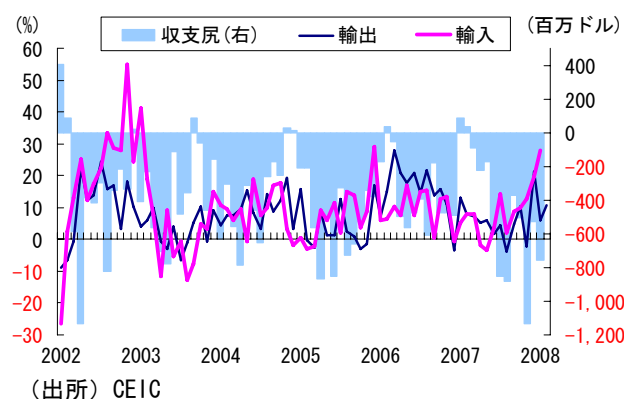


図5 フィリピン 通貨ペソ為替相場の推移(日次)



～シンガポール～

17日に公表された3月の非石油輸出は、対前月比（季調済）で▲2.6%と前月（同▲1.4%）から減速、対前年同月比でも▲3.5%と前月（同+6.5%）から大幅に減速した。国・地域別では、米国向けが3ヶ月連続で前年同月比マイナスとなっている上、3月は同▲27.5%と大幅なマイナスとなったこと、さらに、主要輸出先であるEU向けでも同▲23.7%とマイナスに転化しており、アジア各国向けも軒並み伸び率が大幅に減速したことが影響した。品目別でも、電子機器が同▲8.5%、医薬品が同▲34.1%、化学製品が▲11.8%と軒並み前年比マイナスとなっている。医薬品については、月々の品目別製造量に大きなばらつきが見られることから、留意が必要ではあるものの、全体的な輸出の減速傾向が鮮明となっており、GDPに占める対外依存度の大きい同国にとっては、先行きの景気の下押し材料となるものと見込まれる。なお、米ドルベース（試算値）においても、足元の通貨シンガポールドルの対米ドル為替相場の増価基調の影響もあり、対前年同月比+14.9%と前月（同+

28.1%) から大幅な減速となっている。

図6 シンガポール 輸出入の推移

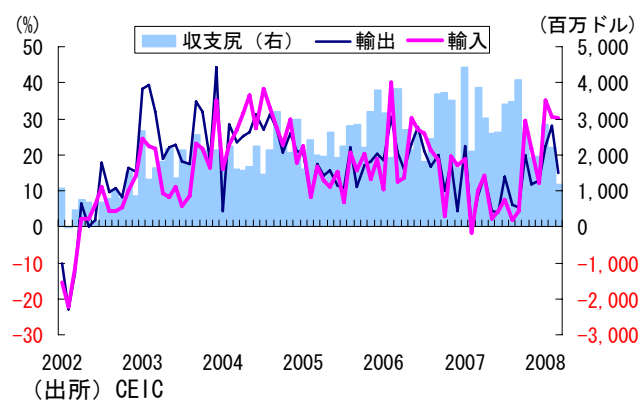
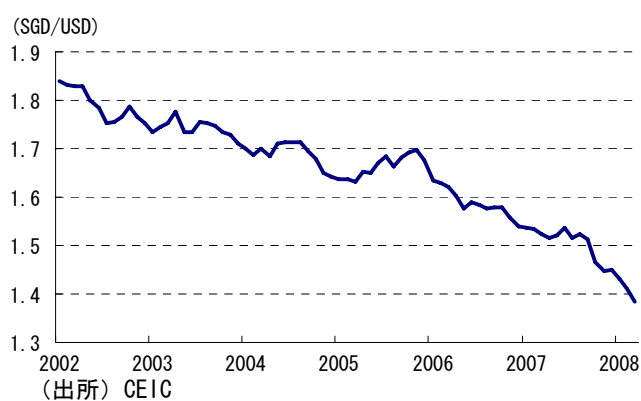


図7 シンガポール 為替相場の推移



以上